



校長室だより

学校教育目標「自ら学ぶ子供」

八代市立八代小学校

校長 村嶋 博史

R5,3,2 No.32

外部機関と連携した教育

本校では、外部機関と連携し、より専門的な教育を行っています。子供たちは、普段とは違う授業に新鮮さを感じているのでしょうか、興味・関心を高め、集中力をもって臨んでいました。ここでは、これまで行った「外部機関と連携したより専門的な教育」の様子をご紹介します。



食育（カルビー株式会社）



環境・水（県環境センター）



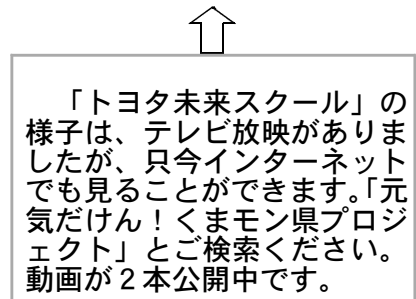
環境・自動車（トヨタ自動車）



環境・水保病（国立水保研究所）



保健（学校薬剤師）



「トヨタ未来スクール」の様子は、テレビ放映がありましたが、只今インターネットでも見ることができます。「元気だけん！くまモン県プロジェクト」とご検索ください。動画が2本公開中です。



食育（市役所・船出浮き関係者）



国際理解（JICA）



SDGs・食育（肥後銀行・市役所）

※今後、認知症の専門資格を有する方を招いて「認知症サポーター」について学ぶ予定です。

「傾聴」による心と体の健康を

話すことによって得られる満足感は、聴くことよりも何倍も大きいそうです。確かに、嬉しいとき、楽しいとき、悲しいとき、苦しいときなど誰かに話をする、心が安らぎます。

また、人には誰も誰かの役に立ちたいという願望があり、人の役に立っていることを実感すると、同様に心が安らぐそうです。そして、人は、この実感をコミュニケーションを通して感じ取っているそうです。

最近の研究では、話すことによって、心の安らぎとともに免疫力が高まるということが証明されたそうです。ご高齢の方の場合は、寝たきりや認知症になる確率も低くなったそうです。このことから、話すことは、心と体の健康を保つ上で大切なことであることが分かります。

話すためには、聴く人がいなければいけません。ここで重要になってくるのが「傾聴」です。

「傾聴」で大切にしたいことは、自分の価値観で相手を批評したり批判したりせず、ありのままを受け入れ（受容）たり、相手の立場に立って理解（共感）したりすることです。それは、うなずきながら、「へえー」「そうなんだ」「なるほど」とか「素晴らしい」「すごい」「すてき」という相づちの言葉を入れながら聴くことで、相手に伝わります。

人は話すことで元気になります。

お子様が話したがったときには、ぜひ「傾聴」されてみてください。